

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	麻生町立麻生中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	24
生徒数	98	115	117	9	339	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人一人に確かな学力の定着を図る学習指導の在り方
 —— 多様な学びの場の工夫を通して ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

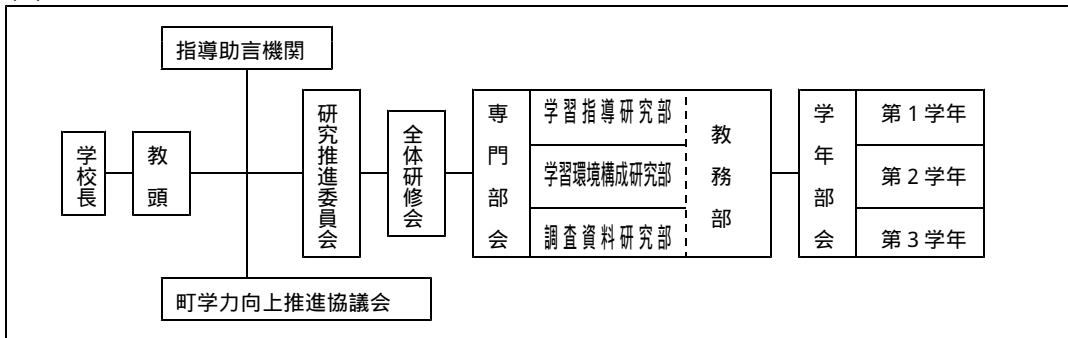
- ・ 2年生・社会
生徒の実態を踏まえるとともに、内容系教科における少人数学習集団による指導を推進するため。
- ・ 3年生・数学
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 多様な学びの場の工夫 研究の見通し ・生徒の学びに応じた多様な場の工夫を行うことによって、確かな学力を定着させることができるであろう。 研究の内容・方法 ・個に応じた指導方法の確立 ・多様な学びの場の設定 ・学力の調査
--------	--

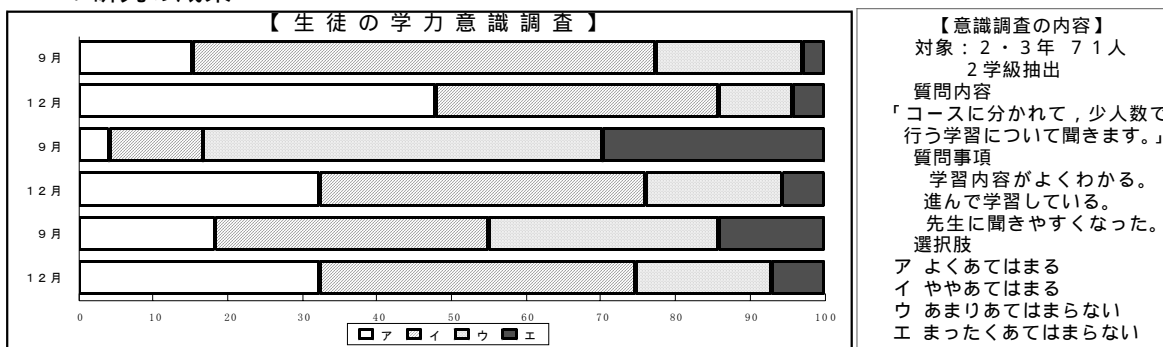
平成16年度	テーマ 多様な学びの場の工夫 研究の見通し ・生徒の学びに応じた多様な場の工夫を行うことによって、確かな学力を定着させることができるであろう。 研究の内容・方法 ・少人数指導実施教科の拡大、教材開発、学区内小学校との連携 ・少人数指導における評価の工夫 ・家庭との連携を図った自主的学習の充実
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果



社会科や数学科において、T・T指導を基盤とした少人数指導（習熟度別学習や課題別学習など）を推進することによって、生徒の意欲的な取り組みを引き出すとともに、教師の意識が変わってきている。また、年間指導計画や評価規準の見直しを図る中で、指導内容の系統や関連をおさえたり、年間を通した指導の見通しを明確にしたりすることによって、指導体制や指導方法の工夫が深められた。

教育課程外における家庭学習や朝自習などの取組を継続することによって、生徒自身が自習の内容を決めたり、本を準備したりするなど、学習意欲や態度の向上につなげることができた。

意識調査を行ったことにより、生徒の学習に対する意識や取組の様子を把握し、指導の方向性や具体的な支援の在り方をつかむことができた。

2. 今後の課題

教材の更なる開発と選択教科の充実、評価の工夫
自主的な学習態度の育成と家庭・地域との連携強化
学力のとらえ方の工夫と指導に役立つ評価資料の作成

学力把握のための学校としての取組

- 茨城県「学力診断のためのテスト」
- ・実施日 平成15年4月17・18日
 - ・実施教科 国語 社会 数学 理科 英語 ・対象 全学年
- 意識調査
- ・実施日 平成15年6月9日 ・対象 全生徒 保護者
 - ・実施内容 生徒（学習意識調査） 保護者（学力に関する意識調査）
- 意識調査
- ・実施日 平成15年9月2日 ・対象 抽出2学級
 - ・実施内容 学習意識調査
- 意識調査
- ・実施日 平成15年12月15日 ・対象 抽出2学級
 - ・実施内容 学習意識調査（9月の調査内容と同様）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会の実施
（平成15年11月21日 麻生中学校 県内小・中学校・保護者 公開授業）
研究成果普及のためのHP作成予定
地区学力向上推進協議会による町内小・中学校への普及

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 レ 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 レ 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 レ 少人数指導 レ T.Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 レ 社会 レ 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 レ 有 無